

はしがき

本書は、文語文法のなかの助動詞・助詞について、ポイントを確認しながら問題を解き、基礎力を養うことを目的としたワークブックです。編集にあたっては、日栄社版『新・要説文語文法 五訂新版』の準拠問題集としても、あるいは、全く独立した文語文法・助動詞・助詞の基礎問題集としても使うことができるよう配慮してあります。

【本書の特長】

① 基本事項とポイントの掲載

助動詞・助詞は、古文学習のなかでもたいへん重要です。接続・意味などの基本事項と、意味の判別などのポイントを載せました。問題に当たる際に見直し、確認しながら解けるようにしてあります。

② 基礎力が養える問題配置

助動詞は、まず活用表を完成させることから始めるなど、基礎力が養えるよう問題を配置しました。問題文は比較的平易なものを採録し、必要に応じてわざに色刷りで口語訳をつけ、効果的に学習できるようにしてあります。

③ 「復習問題」「総合問題」

学習の定着をはかるため、適宜「復習問題」を配置し、最後に「総合問題」を設けました。

本書が、皆さんのが文学習の一助となることを祈っています。

目次

【助動詞】

1	自発・可能・受身・尊敬 :	2	10	推量	4 :	18
2	使役・尊敬 :	4	11	復習問題	2 :	20
3	打消 :	6	12	伝聞・推定 :	22	
4	過去 :	7	13	断定 :	23	
5	完了 :	8	14	打消推量 :	24	
6	復習問題	1 :	15	願望 :		
7	推量	1 :	16	比況 :	26	
8	推量	2 :	17	復習問題	3 :	
9	推量	3 :	18	係助詞	2 :	38
10		16	19	接続助詞	:	
11			20	副助詞	:	
12			21	係助詞	:	
13			22	終助詞・間投助詞	:	
14			23	復習問題	4 :	
15			24	総合問題	4 :	
16			25			

助動詞一覧表 : 46

助詞一覧表 : 47

1 自発・可能・受身・尊敬の助動詞（る・らる）

る らる

【接続】る——四段・ナ変・ラ変の動詞の未然形

らる——右以外の動詞の未然形

【意味】自発 〈（自然）…ル〉 可能 〈…コトガデキル〉

受身 〈…ル・…ラル〉 尊敬 〈オ…ニナル・…ナサル〉

●「る」「らる」の意味の判別

思ふ・しのぶ・おどろく・ながむ + る → 自発

〈心情や知覚を表す動詞〉

おどろかる ながめる → 自発

思ふ・しのぶ・おどろく・ながむ + らる → 受身

〈心事や状況を表す動詞〉

おどろかれる → 受身

思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔後嵯峨天皇〕大井の土民に仰せて、水車をつくらせられけり。

雨降りなどすれば、恐ろしくて寝も寝られず。 → 受身

〔徒然草〕男犬にかかる。 → 受身

あはれ悲しそ思ひ嘆かる。 → 受身

〔徒然草〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔徒然草〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔更級日記〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔源氏物語〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔徒然草〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔源氏物語〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔源氏物語〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔徒然草〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

〔源氏物語〕思ひ出でて、よよと泣かれ給ふ。 → 受身

ア 自発 イ 可能 ウ 受身 エ 尊敬

いかに仰せらるるやらん。

〔徒然草〕

（新古今集）

①	
②	
③	
④	
⑤	

2 次の傍線部の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

- ① ものは少しおぼゆれども、腰なむ動かれぬ。
〔源氏物語〕
- ② 「光源氏ハ」交野の少将には笑はれたまひけむかし。
〔大鏡〕
- ③ 人も、さ見たらむかしと、心ときめさせらる。
〔枕草子〕
- ④ すべて男をば、女に笑はれぬやうにおほしたつべしとぞ。
〔徒然草〕
- ⑤ かの大納言、いづれの船にか乗らるべき。
- ⑥ 大将殿も聞き給ひて、「さればよ、……」と、驚かれ給うて、
〔源氏物語〕

■活用表 次の活用表を完成させなさい。

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	る						

下二段型

3 次の（　）に「る」か「らる」を適切な形にして入れなさい。

- ① 「翁丸ガ」あはれがら（　）て、震ひ鳴き出でたりしこそ、
〔枕草子〕
- 〔天の名〕
- ② 「別れは知りたりや」となむ仰せ（　）もいとをかし。
〔中宮様が別れは知っているのか〕
- 〔枕草子〕

- ③ 雨の音、風の吹きゆるがすも、ふとおどろか（　）。
〔枕草子〕
- 〔竹取物語〕

- ④ 物におそは（　）やうにて、あひ戦はむ心もなかりけり。
〔物の怪けに〕
- 〔竹取物語〕

- ⑤ おほかたは、家居にこそ、ことさまはおしほから（　）。
〔竹取物語〕
- 〔徒然草〕

①	
②	
③	
④	
⑤	

4 次の傍線部を助動詞の意味に注意して口語訳しなさい。

- ① 使はるる人々も、……恋しからむことの堪へがたく、湯水飲まれ
〔竹取物語〕
- ず、同じ心に嘆かしがりけり。
- 〔大鏡〕
- ② 見捨てたてまつる悲しくて、人知れずうち泣かれぬ。
〔更級日記〕

- ③ 思ふ人の人にほめらるるは、いみじうれしき。
〔枕草子〕

⑤	③	①
形	形	形
⑥	④	②

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・にて・して）

が・の 主格〈…ガ〉・連体修飾格〈…ノ〉の用法が最も多い。

同格〈…デ〉・体言の代用〈…ノモノ〉・比喩（連用修飾格）〈…ノヨウニ〉の用法に注意する。

●同格の「(6)」

〔連体修飾語+体言の……連体形「が・を・に」……〕

【訳し方】 A [] で、 B [] 体言「またはの」が……

〔例〕 連歌しける法師の、行願寺のほとりにありけるが、聞きて、

〔徒然草〕 連歌をしていた法師で、行願寺の辺りに住んでいた法師が、聞いて、

〔徒然草〕 連歌をしていた法師で、行願寺の辺りに住んでいた法師が、聞いて、

に 場所・時・変化の結果、動作の対象・目的などの用法がある。

動詞の間にはさんで強意を表す用法もある。〈タダモウ・スル〉

【体言・連体形+に】 ↗ 格助詞

「に」は他に、接続助詞、形容動詞ナリ活用連用形の活用語尾、断定の助動詞「なり」の連用形、完了の助動詞「ぬ」の連用形がある。

引用文を受けることが多い。「…と言つて…と思つて」と訳す。

引用文の「」が省略されていることもあるので注意する。

手段・方法の用法は、「徒歩より」（徒歩で）、「馬より」（馬で）。

即時〈…スルヤイナヤ〉の用法は「連体形+より」の形。

にて 原因・理由〈…デ・…ニヨツテ〉に注意する。

2 次の傍線部「に」の用法を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 立ちて見、ゐて見れども、去年に似るべくもあらず。 (伊勢物語)
- ② 九月二十日のころ、ある人に誘はれ奉りて、 (徒然草)
- ③ 「いざたまへ、出雲拝みに。かいもちひ召させむ。」 (徒然草)
- ④ 怒りて、ひた斬りに斬り落としつ。 (徒然草)
- ⑤ 女の鬼になりたるを率てのぼりたりと言ふ事ありて、 (徒然草)
- ⑥ 露落ち花残れり。残るといへども朝日に枯れぬ。 (方丈記)

3 次の傍線部「と」「より」の用法を後から選び、記号で答えなさい。

- ① これまで逃れくるは、汝と一所で死なんと思ふためなり。(平家物語)
- ② 七珍万宝さながら灰燼となりにき。 (源氏物語)
- ③ 「これなむ都鳥。」と言ふ。 (伊勢物語)
- ④ 門引き入るるより、けはひあはれなり。 (源氏物語)

1 次の傍線部「が」「の」の用法を後から選び、記号で答えなさい。

- ① 月の出でたらむ夜は、見おこせ給へ。 (竹取物語)
- ② 世間の人、なべてこの事あり。 (徒然草)

③ 今のあるじも前のも、手とりかわして、 (土佐日記)

④ 昔、こはたと言ひけむが孫といふ。 (更級日記)

⑤ 清少納言が書けるも、げにざることぞかし。 (徒然草)

⑥ 大きなる柑子の木の、枝もたわわになりたるが、 (徒然草)

⑦ 日暮るるほど、例の集まりぬ。 (竹取物語)

⑧ 和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、 (十訓抄)

ア 主格 イ 連体修飾格

ウ 同格 エ 体言の代用

オ 比喩（連用修飾格）

①	⑥	①
②	a	②
③	b	③
④	⑦	④
⑤	⑧	⑤

4 次の傍線部を格助詞の用法に注意して口語訳しなさい。

- ① ある荒夷の恐ろしげなるが、かたへにあひて、 (徒然草)
- ② われ朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。 (竹取物語)
- ③ 時の間の煙ともなりなんとぞ、うち見るより思はる。 (徒然草)
- ④ 白馬見にして、里人は車清げに仕立てて見にいく。 (枕草子)
- ⑤ ただ冷えに冷え入りて、息はとく絶えはてにけり。 (源氏物語)